研究ノート

モンポウ／ブランカフォルト往復書簡（1929年）解題と翻訳

椎　名　亮　輔
同志社女子大学・学芸学部・音楽学科・教授

Correspondence between Frederic Mompou and Manuel Blancafort (1929): Translation and Commentary

SHIINA Ryosuke
Department of Music, Faculty of Liberal Arts, Doshisha Women's College of Liberal Arts, Professor

【解題】

現代カタルーニャを代表する作曲家、フラダリック・モンポウ（1893～1987）とマヌエル・ブランカフォルト（1897～1987）の往復書簡を紹介する。これまでに：

1918年から1921年までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第32巻（2015年）；

1921年から1924年7月までの書簡：『同志社女子大学学術研究年報』第66巻（2015年）；

1924年8月から1925年3月までの書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第16号（2016年）；

1925年5月から1926年4月までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第33巻（2016年）；

1926年4月の書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第17号（2017年）；

1926年5月から7月までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第34巻（2017年）；

1926年8月から1927年の2月までの書簡：『同志社女子大学学術研究年報』第68巻（2017年）；

1927年3月から6月までの書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第18号（2018年）；

1927年7月から12月までの書簡：『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第35巻（2018年）；

1928年1月から9月までの書簡：『同志社女子大学学術研究年報』第69巻（2018年）；

1928年10月から年末の12月までの書簡：『同志社女子大学文学研究科紀要』第19号（2019年）；

というように発表してきた。

すでにこの書簡翻訳・解題の仕事も5年目に突入する事になり、初めて目にする方も多くなって来た事から、この仕事の持つ意味について当初に掲げた文章を再掲させて頂きたい。この仕事は以下の文章によって始まっていた。

「両者共に現代カタルーニャを代表する作曲家、フラダリック・モンポウとマヌエル・ブランカフォルトは彼らが二十歳前後の頃に出会い、終生友情を持ち続けた親友であった。特にその交友初期、彼らが20代から30代にかけては様々な刺激を大いに与え合い、お互いの芸術的スタイルを育てて行ったのであった。彼らの芸術を理解するためには、その交流の証である往

復書簡を手がかりにする必要がある。［中略］

フラダリック・モンポウ（スペイン語ではフェデリコ・モンポウ）Frederic Mompou（1893～1987）は、カタルーニャ州バルセロナで生まれた。リセウ音楽院でピアノを習い、1908年14歳で最初のリサイタルを行う。翌年バルセロナに楽旅に来たフォーレのコンサートを聴いたことが、作曲家を志すきっかけとなった。1911年グラナドスの紹介状を携えて、パリ音楽院院長のフォーレのもとを訪れた彼はしかし、院長面接に怖じ気づき、教室を後にしてしまう。それでも、個人教授でフェルディナン・モット＝ラクロワにピアノを習うなどしながら、1913年までパリに留まる。その後のバルセロナ帰還後は彼の初期のピアノ曲が続々と創造された時期であり、また生涯の友、マヌエル・ブランカフォルト Manuel Blancafort（1897～1987）と出会った時期でもある。

マヌエル・ブランカフォルトも作曲家であるが、音楽は全くの独学である。彼はバルセロナ北郊にある温泉地ラ・ガリーガに生まれた。彼の父親はその地に湯治用ホテルを所有し、またかなりの楽才もあったらしい。ホテル業以外に当時勃興しつつあったロール・ピアノの会社を、1905年に立ち上げたが、これはその後ほぼ息子のマヌエルに任せる形になって行った。しかし、その仕事こそ彼の音楽の実地授業となったのだった。ロールにパンチで穴を開けながら、音楽の実際を学んだのである。そして、共通の友人を介して出会ったモンポウからの大きな影響もあった。」

この出会いの後に徐々に時が経つにつれ、二人の作曲家はお互いに影響を与えながらも夫々の道を歩んでいく。こうして、これから個々の翻訳部分についての解題が付くわけだが、これによりこの二人の現代カタルーニャ作曲家の往復書簡を理解する事がいかに重要であるかが多少とも解って頂けたと思う。出典についても改めてここに提示しておく。モンポウの書簡の出典はカタルーニャ図書館 Biblioteca de Catalunya の音楽部 Secció de música に所蔵されている「モンポウ資料 Fons Mompou」の中の、「ブランカフォルト宛の書簡 Correspondencià a M. Blancafort」（M5022/2）である。また、ブランカフォルトのものはブランカフォルト財団 Fundació Manuel Blancafort 所蔵の資料である。

さて、今回は1929年1月から年末（日付なしなので推定である）までの書簡を紹介する。徐々に二人の間の書簡が少なくなってくる。今回の分で1929年の一年分を全て網羅しているし、翌年1930年にはモンポウからの一通のみ、1931年には六月に二人の間を往復した二通のみ、というように現存している手紙が極端に少なくなる。

時代も1929年の世界恐慌に始まり、1931年にはスペインで共和政が敷かれるが、社会経済状況が混乱する中、政治情勢も大変に不安定で、1936年に左翼のコミンテルンが組織されるや否や今度は極右のフランコ将軍がクーデターを起こすことになる。こうしてスペインは暗黒の内戦時代に突入して行くのだ。

【翻訳】

164

Barcelona 5 Gener 1929

Estimat amic

Escric aquesta carta amb gran esforç pues vaig caient en una d'aquelles depressions que porto sempre penjades sobre meu ameçantme. Jo per mes esforços que faig per distreurem de la meva fatal obseció no puc deslliurarme d'aquesta condemna que porto a sobre com una de les cargues mes feixugues

Jo me feia encara l'ilusio de que trobaria un moment per pujar pero jo estic ben llest. Dimarts m'en vaig.

Parla de mi al teu Pare i despedeixem de tots.

Recorda el meu agrahiment a Elena per la seva amable acollida. Amb molts petons als teus fills

Una abrassada del teu amic.

Frederic.

バルセロナ、1929 年 1 月 5 日

親愛なる友よ、

大いなる努力をもってこの手紙を書いている、というのも、例の鬱状態に陥りつつあるからだ。これは、いつもぼくにつきまとい、脅かしているものなのだ。ぼくは、いかにぼくの致命的な強迫観念から自分を引き離そうと努力しても、この最大の重荷としてもっている有罪判決から自由になることはできないんだ。

まだ［ラ・ガリーガへ］登っていくときを見つけられる希望をもってはいたのだが、［もうパリへ出発の］準備ができてしまった。火曜日には出発する。

父君にぼくのことを話したまえ、そして全てに許しを乞うてほしい。

エレナには、その素敵な歓迎について感謝していると伝えてくれ。そして、君の子どもたちには多くのキスを。

君の友からの抱擁を、

フラダリック

165

Paris, 28 gener 1929

Estimat amic

Has pensat que trigaba a escriure i jo he sapigut esperar amb resignació que vingués el teu torn. Tens raó que ha trigat. Jo també he pensat que trigaba

Jo t'escric honradament pues tots els deures de societat han passat davant teu i tu quedabas en un “reco” de preferencia

Hi ha coses que deixem per ultim moment per indiferencia i altres perque estimém més que totes..

Amb tot això ja som al 2 de febrer. Com passa el temps.

Molt llargament t'escriuria si tingués de parlar de tots els recorts viscuts les poques hores al mitg de mi mateix i el costat teu i al costat vostre. Una sensació que guardo mes dolça dins de mí es l'imatge del teu Pare Es una visió que n'estic plé de benestar i més diria si no tingués por d'exterioritzarme massa. Soc egoista tant egoista que necessito guardar preciosament tantes bones coses dins de mí. No es precisament l'admiració per la meva musica que mes m'ha afectat. Es l'amistat.

Tantes vegades que jo havia viscut en el Balneari, tant mateix me faltaba alguna cosa. A mi també m'agradaria passar vuit dies el costat del teu Pare. Ja ho fare.

Recordo ara molt aquell llaç que jo vaig mirar

amb tanta indiferencia...

Penso fer més sovint aquestes visites qui sab per el més de Mars...

He tingut noticies del exit!? De “Altitud”. No se si vas anarhi pues crec va ser bisada. No dupto ni un moment que l’exit va ser degut a la gran propaganda pues he quedat sorpres. Altra motiu de l’exit es en Costa

T’aconsello que per l’audició del teu Mati de Festa procuris convencer en Lamotte perque anunci en una forma preferent la teva obra pues això no costa ni mes ni menys que les ganes de ferho per part de l’empresari del concert.

Jo estic ara treballant sobre un text francés. “Le Nuage” poesia de Mathilde Pomés una escritora moderna d’aqui. Jo desitjaria escriure tantes coses pero ja sé que sempre estaré condemnat a suar cuatre gotes de musica i... encara gracies i per sobre passar per un mal treballador i altres coses..

Creu que es una mala cosa aquest assumpto de la musica. Tu encara no coneixes el cantó pitjor i no t’ho desitjo.

He tingut aquests dies una idea esplendida que resumeix moltes coses en una frase:

“La musica té una passió per mi...” que voldria desarotllar en un article. Vas llegir el meu interviu amb Xuriguera a la Publicitat? i l’article d’en Baltasar Samper?

L’altre tarda vaig estar a casa de la Barrientos per entregarli la cançó que li he dedicat. Vaig treuren una magnífica impresió

M’excuso encara de la meva tardansa ja ben caracteristica en mi pero ben inutil per convencet contra la teva formada opinió de mi que sempre plana sobre el teu pensament

Pero jo puc pensar que la teva passió per l’escritura, ben caracteristica en tu, no porta diferencia amb el meu esfors per l’escritura

No puc contarta res que no sigui monotonia

Com estan les interpretacions per- forades?

No descuidis de saludar molt afectuosament a tots els teus amb petons als teus fills.

T’estima.

Frederic

パリ、1929 年 1 月 28 日

親愛なる友よ、

君はぼくが手紙を書くのに遅れていると考えていた。そしてぼくは、君の番になるのを諦念をもって待つことができた。それが遅れたことについては君は正しかった。ぼくも、またどうも遅いなと思ったのだ。

ぼくは正直に書くが、つまり、あらゆる社会的義務はまず君よりも前にあり、君は優先順位の「片隅」にいるんだ。

我々には無関心がゆえに最後に残しておくものもあれば、他のものよりも大切だからこそ残しておくものもある……。

何やかんやでもう 2 月 2 日になろうとしている。時の経つのはなんて速いんだ！

あれら全ての生き生きした思い出について語らなければならないとしたら、手紙はたいへん長いものとなるだろう。ぼく自身の真ん中にいた短い時間、君の傍、君たちの傍にいたあの短い時間の[思い出について]……。ぼくの中でもっとも温かい気持ちをもったのは、君の父君の映像だ。それはぼくを良い気持ちでいっぱいにしてくれた眺めで、誇張して言い過ぎることを恐れなければ、最高のものだったといえよう。ぼくはエゴイストだ。あまりにエゴイストなので、とても多くの良いものを自分のうちに大切にとっておく必要があるのだ。ぼくをもっとも動かしたのは君の音楽への賛嘆では、正確には、ない。友情なのだ。

ぼくは［君の］湯治用ホテル［1］にあれほど頻繁に行ったけれども、何かが足りないと思っていた。ぼくもまた、君の父君の傍で一週間過ごしてみたいよ。そうするつもりだ。

今ぼくは、あれほどの無関心さで眺めていた、あの絆を多く思い出している……。

もっとしばしば、そうした訪問をしようと思っている。おそらく、3月などに……。

《高み》の成功のニュースを受け取った！　君が聴きに行ったかどうか知らないが、それはアンコールされたらしい。一瞬たりとも、その成功が大宣伝のおかげだとは全然思わないが、しかし、驚いているよ。成功のもうひとつの要因は、コスタ［2］だね。

君にアドバイスするが、君の《祭りの朝》が演奏されるためには、ラモット［3］を説得する努力をするんだね。そして彼に、君の作品を優先的に演奏すると言わせるんだ。つまり、コンサートの興行主がそれをやりたいという思いと比べて、それがより多くも少なくもないということにするんだ。

ぼくは今、フランス語の歌詞に曲をつけている。『雲』という、ここ［パリ］の現代作家、マチルド・ポメス［4］の詩だ。もっと多くのものを書きたいと思っているが、いつもほんの少しの音楽しかひねり出せないようにできているのは、良くわかっているんだ……、まあそれでも有難いと思うし、そのうえ怠け者だったり、その他のものだったり……。

これらの音楽についてのことが悪いことだということは信じてくれ。君はまだ、より悪い面を知らないし、君にそのようになってほしくない。

数日前に、ぼくはたくさんのことを一言で表現できる素晴らしいアイデアを思いついた。すなわち、

「音楽は、私にとってひとつの情熱をもっている［情熱である？］……」とね。このアイデアを論文にまで発展させたいと思っている。君は、『ラ・プブリシタット』紙に掲載された、シュリゲラ［5］とぼくのインタビューを読んだかい？　また、バルタサール・サンペール［6］の記事は？

先日の午後、バリエントス［7］の家に行って、彼女に捧げた歌曲を渡した。素晴らしい印象を引き起こしたよ。

またぼくにこれほど特徴的な遅筆をあやまるよ。でも、君の思考の上にいつもたなびく、ぼくについての君の確信を変えるのには役に立たない。

しかし、君にとても特徴的な、書くことへの情熱、これはぼくの書くことへの努力と何ら変わらないものだと考えることはできるだろう。

君には何事も単調にならないでは説明できないね。

穴あきの演奏解釈はどうだい？

君の家族全員にとても愛情をもって挨拶するのを忘れないでくれたまえ、そして子どもたちにはキスを。

友情をもって、

フラダリック

註

［1］ブランカフォルトの父は、バルセロナ西北郊の保養地ラ・ガリーガに湯治用のホテルを経営していた。今でも彼地にはブランカフォルトの名を冠したホテルが存在する。

［2］フランセスク・コスタ Francesc Costa i Carrera（1891～1959）は、バルセロナのヴァイオリニスト。1922年から市立音楽学校で教授。書簡84参照。1929年1月27日バルセロナのパラウ・デ・ラ・ムシカで《高み》を初演した（伴奏はアレハンドロ・ビラルタ）。

［3］ラモット・ド・グリニョンがブランカフォルトの《祭りの朝》を見て、激賞していたという話が書簡160にあった。

［4］マチルド・ポメス Mathilde Pomès（1886～1977）は、フランスの詩人・批評家・翻訳家。非常に秀才で、女性で初めてスペイン語の高等教育教授資格（アグレガシオン）を取得した。

［5］ラモン・シュリゲラ Ramon Xuriguera i Parramona（1901～1966）のことか。カタルーニャ州メナルゲンス出身のエッセイスト・翻訳家・政治家で、当時はパリにいて『ラ・プブリシタット』紙の通信員をしていた。

［6］バルタサール・サンペール Baltasar Samper i Marquès（1888～1966）。マジョルカ生まれのカタルーニャの音楽家。ピアニスト・作曲家・指揮者・音楽批評家そして民族音楽学者であった。しかし内戦を避けて、はじめフランスに、そしてメキシコに亡命し、二度と帰国しなかったため忘れ去られてしまったという。いわゆるカタルーニャ「八人組」の一人でもある。

［7］マリア・バリエントス Maria Barientos i Llopis（1884～1946）。バルセロナ出身のオペラ歌手。素晴らしい歌声のコロラトゥーラ・ソプラノとして、15歳から舞台に立ち、世界中のオペラハウスで活躍した。しかし1924年にオペラ歌手を引退し、その後はコンサートの歌手として活動し、特にフランスとスペインの歌曲の演奏に秀でていた。彼女に捧げた歌曲については不詳。

166

23 - III - 29

Estimat amic

Coneixes la meva activitat. Però no coneixes el vertigen de les meves darreres setmanes. Es extraordinari. No disposo de cinc minuts.

Suposo que tu estàs encare més ocupat - - altrament m'haurías escrit. Si el silenci es degut a la lluita contra el pentàgrama no'm dono per ofès. Trevalles?

Quins diaris has llegit que parlessin de la meva estrena del "Matí de festa" ? Si m'ho dius t'en enviaré algún . T'explicaré detalladament les impressions i jo mateix en feré la critica.

De moment et dic qu'es extraordinaria la impressió de sentir per primera vegada la propia música a l'orquestra.

No he tingut èxit de públic però m'han satisfet molt les tres gotetes d'èxit veritat entre uns intel·ligents. Ha sigut una lliçó molt gran i profitosa aquesta estrena a l'orquestra. Ara ja sé de nadarles i ja el mar no'm fa por.

Et participo que tinc llest el II temps de la Sonata en DO. "Affettuoso" Falta el "Rondo"

Escriu. Escriuré.

Records MBlancafort

o si vols Manuel

[AL MARGEN]

ja veus que vaig depressa!

1929 年 3 月 23 日

親愛なる友よ

君はぼくの活動を知っている。しかしここ数週間の眩暈［のするような忙しさ］は知らないだろう。凄いものだったよ。5 分と休む暇がなかったんだ。

君はもっと忙しくしていることと思う。ぼくに手紙で言ってきたのとは違ってね。もし［君の］沈黙が五線紙との戦いのせいだとしたら、腹は立たないよ。仕事をしてるかい？

ぼくの《祭りの朝》初演について語っているのを読んだというのはどの新聞のことだい？言ってくれれば、少し送ってもいい。その印象について君に詳細に説明しよう、そしてぼく自身が批評をしようじゃないか。

今のところ君に言えることは、初めて自分の作品をオーケストラで聴いた印象とは素晴らしいものだった、ということだ。

［一般］聴衆からの成功は得られなかったが、知識人たちのあいだでの、数は少ないが真実の成功がぼくを満足させたんだ。あのオーケストラ初演はとても大きな、そしてためになる教訓となった。いまやぼくは泳げるようになり、海が怖くなくなったんだ。

ハ調のソナタの第二楽章「アフェットゥオーゾ」を完成させようと思っていることを伝えておこう。あとは「ロンド」だけだ。

手紙をくれたまえ。ぼくも書く。

敬具、M ブランカフォルト

あるいは、お好みなら、マヌエル。

［余白に］
さあこれで、ぼくが急いでいるのがわかるだろう！

167

Paris 30 Mars 1929

Estimat amic

He rebut totes les teves cartes i jo no escric fins avui despres de tant temps de silenci. Aquest mateix silenci de sempre el cual tu no arribarás a compendre mai i que no arribarás a perdonar mai

No tens, com jo, la gran admiració a les celebres paraules d'aquell famós Pare Lacordaire “tot compendre es tot perdonar”

En la teva ultima carta demostres una vegada més, que no comprens.

Cuant no t'escric, has de sapiguer compendre qu'em trobo en la més absoluta inactivitat. El fet de retornar a retrobarla l'indica tot seguit una carta que t'escric.

Cuant més activitat tingués i cuant més tingués el dia ocupat, més trobaria el cuart d'hora per una carta. Es la comparació de la casa en la cual passen miseria i que ni un gós podria escurar un ós, o bé la taula abundant

en la cual ja no bé de un, de dos, de tres convidats més.

Tu em fas alarde i cuasi rabietes de la teva activitat i no trobes en la teva taula, més qu'un rosegó de pá per mi.. Jo esperaba ja fa temps carta teva, sobretot en ocasió de l'estrena del teu "Matí de Festa".

Jo fins ahir no vaig rebre les crítiques pues a casa s'en van descuidar d'enviarles. Tinc desde la crítica de la Publicitat, com també els tres intervius, fins a la crítica de la Vanguardia. Es estrany no m'han enviat la Veu.

Veig qu'en Samper s'ha interessat molt i ha fet un article digne de la teva obra. M'hauria molt agradat sentirla a l'orquestra pues ja m'imagino l'impresió que això deu produir. Ja sabs que si m'envies els materials jo em cuidaré de fer ho executar aqui.

Com te deia, segons sembla, torno a estar en erupció.. Me sembla que faré alguna cosa. Sento altre vegada la sonata qu'em truca a la porta.

Veig que la teva ha trucat també pero afortunadament per tu, es per sortir ja al carrer. La meva tot just vol entrar a casa! i pot ser que fins si posi malalta i mori..!

Ja tinc acabat la melodia "Neige"

Crec que no he guanyat rés.

Escriu aviat. T'estima

Frederic

パリ、1929年3月30日

親愛なる友よ

君からの手紙は全て受け取ったが、これほど長時間の沈黙のあと、今日になるまでぼくは手紙を書かなかった。このいつものお馴染みの沈黙だ。君はそれを一度も理解しようとしないし、一度も許そうともしない。

君は、ぼくのように、あの有名なラコルデール神父の良く知られた言葉に大いなる賛嘆をもってはいないのだ。すなわち「理解するとは、許すこと」。

君の最後の手紙のなかでわかるのは、またもや、君が理解していないことだ。

君にぼくが手紙を書かないのは、君はそれを理解できるようにならなければならないのだが、最高に絶対的な不活性状態にぼくが陥っているせいなのだ。そうなってしまっていることは、［いま］君に書いている手紙が直ちに示してくれている。

君は活動が増えれば増えるほど、日中の仕事が増えれば増えるほど、手紙を書く時間を少しでも見つけだす。これはたとえて言えば、とても貧乏な家で、そこでは犬さえしゃぶる骨を見つけられないような家と、［たくさんの料理で］賑わっているテーブルで、そこでは一人、二人あるいは三人でも、お客が増えるのは全く構わないといったテーブルのようなものなのだ。

君は自分の活動をぼくに見せつけ、ほとんど癇癪を起こしているようでもあるが、君のテーブルの上にはたった一かけらのパンもぼくのためにはないんだ……。ぼくは、もうだいぶ前から、君からの手紙を待っていた。とくに君の《祭りの朝》初演について書いたものをね。

昨日まで、その批評は受け取っていない。つまり家では、それを送るのを忘れていたということなのだ。それから、『ラ・プブリシタット』紙の批評を手に入れた。そしてまたインタビューを三つと『ラ・バンガルディア』紙の批評まで。『声』紙を送ってこないのは変だけれどね。

サンペールがとても興味をもって、君の作品に相応しい記事を書いているのを見たよ。オーケストラで聴いてみたかったね、だってそれがどんな印象を引き起こしたか想像できるからね。君がパート譜を送ってくれたら、こちらで演奏できるように取り計らうつもりだよ。

君に伝えておいたとおり、どうもひと噴火ありそうだ……。何かが起こりそうな気がする。このあいだは、戸口でぼくを呼んでいるソナタを聴いたんだ。

君の［ソナタ］も呼んだことはわかったよ。でも、君にとって幸いなことに、それは道へ出て行くためのものだった。ぼくのは、ほとんど家に入ろうとしない！　そのうえ、どうも病気になって死にそうなんだ！……

歌曲《雪》[1] を完成させようと思っている。

何も得るところはないと思う。

はやく手紙をくれたまえ。友情をもって

フラダリック

註

[1] 自作の詩に曲を付けた《四つの歌曲 Quatre mélodies》の四曲目。コンチータ・バディーアに捧げられた。四曲まとめて 1931 年に、パリのルーアール・ルロル社から出版された。

168

Paris 6 Maig 1929

Estimat amic Manuel.

Contesto amb retrás com sempre la teva carta del 14. Veig en primer lloc, amb satisfacció qu'el teu pare t'ha posat la confiança per al desenrotllo del negoci del sabo (digues que ara fareu la competencia al nostro amic Rocamora). Verdaderament no hi ha res de bó a esperar del negoci dels rotllos i sento i es trist que tot l'esforç que representa montar un negoci com aquest tingui que acabar potser a res.

M'entero de la formació de la penya (potser en aquestes hores ja no existeix pues com dius es molt dificil sostenirna una). Ja hauras filat suposo a n'en Gibert Camins. He llegit algunes critiques d'ell a la publi i la veritat no el coneixia en aquest tereny...

Ja he llegit també les critiques d'en Pahissa i veritat diu algunes opinions que no estic conforme com lo dels russos lo del nacionalisme en musica. M'ha agradat l'article de les "llaunes". A mi com tu sabs m'agradaria molt escriure pero la pluma me cau dels dits. Ara m'han ofert d'escriure aqui al "Figaro" el diari seriós i artistic i aristocratic.

Una cosa em sedueix i es qu'em donen 400 x per article. Ja n'he enviat un pero tinc por que no sigui admés pues jo no tinc cap facilitat per escriure ni articles ni musica. Es una lluita gran la que estic sostenint.

Veig tens sort amb la casa Salabert estic

segur que la musica et donará més profit a tu que a mi. Estic molt preocupat per aquesta cuestió.

Es indecent lo que passa amb la cuestió d'edicions musicals. No hi ha dret.

Aixis resulta que un autor conegut com jo i d'exit encara no he agotat la primera edició de "charmes" impresa fa tres anys! Cuantsevol llibre per exemple "Valencia" de Falgairolle fa 6.000 exemplar amb tres mesos

Veig amb satisfacció l'exit del meu germa. També el pintor es defensa millor. Ja sabs qu'el meu germa tot just posat a pintar oficialment troba en Maragall el cual firma un contracte que li assegura 700 pesetes cada mes amb l'obligació d'entregar solament dos cuadros cada més. De l'exposició n'ha venut 9 de 600 pts a 1.300 pts cada un.

Jo treballo molt amb una gran disciplina pero massa esfors.

Voldria demanarte si voldries cuidarte d'una cosa que potser seria ocasió d'estar junts aquest histiu

Si tens temps, tu que tens auto, voldries mirar si trobessis una torre per els voltants de la Garriga, sigui Ametlla sigui Samalus o bé una bona masia sobre un preu de 1.000 ptes l'istiu. (Es cuestio d'estalviar). O bé Ferreries Un lloc sense colonia aislat pero també en cas de malaltia, medis i comoditat. Enfi no es facil pero tu mira.

En Rubinstein toca musica espanyola el dia 13. A veure que tocará.

Molts afectuosos recorts per tots els teus. T'estima.

Frederic.

パリ、1929 年 5 月 6 日

親愛なる友マヌエルよ、

君の 14 日の手紙にいつものように遅れて返事をする。まず第一に、君の父君が石鹸事業の発展について君に信頼を置いているのを見て安心した（いまや君はぼくたちの友ロカモーラに匹敵しさえするとも言えるね！）。本当に［ピアノ］ロール事業は何も良いものが期待できないし、残念だが、このような事業を立ち上げることに費やされた努力全てが、おそらく水の泡になってしまうというのは悲しいことだ。

グループが出来上がりつつあることはわかった（おそらくこの段階ではもう存在しないのだろうが。つまり君が言うようにグループを存続させることは難しいことだから）。君はもうジベルト・カミンス［1］のことはわかっていると思う。ぼくは『プブリ［シタット］』紙に載った彼の批評をいくつか読んでみたけれど、実際のところ、この領域では知らなかったよ。

またパイッサ［2］の批評も読んだのだが、正直なところ、いくつかの意見には賛成できないね。たとえば、ロシア人たちについてとか、音楽におけるナショナリズムについてなど。「ブリキ」［口語では「うんざりすること」とか「お金」の意］についての記事は気に入ったよ。ぼくは、君も知っているとおり、大いに執筆する気はあるのだが、筆が指のあいだを摺り抜けてしまうんだ。最近、こちらの『ル・フィガロ』紙から執筆依頼がきた。これは真面目な、芸術的かつ貴族的な新聞だ。

ひとつ魅力的なことがあって、それはひとつの

記事について400支払ってくれるというんだよ。すでにひとつ送ったんだが、掲載されないんじゃないかとびくびくしている。だって、ぼくは書くことについては、記事にせよ音楽にせよ、なかなか上手くいかないんだからね。これはぼくが頑張り続ける偉大なる戦いなんだ。

君はサラベール社に認められたようだね。音楽はぼくよりも君の方により利益を齎すことは確かだよ。この問題にはぼくはとても関心をもっているんだ。音楽出版の問題をめぐる状況は噴飯ものだよ。そんな権利はない。［あるいは、「（作曲家の、著作）権がない」とも読める。］

こうして結局、ぼくのように知られた、そして成功を収めた作者が、未だに三年前に印刷された《魅惑》の初版が売り切れていないということになるんだ！　どんな書物だって、たとえばファルゲロルの『バレンシア』のような本［3］だって、三ヶ月で六千部は売れるんだぜ。

兄の成功は満足をもって見ている。また画家の方が生活を維持し易そうだ。すでに知ってるだろうが、兄は、画家として公式に活動を始めてすぐに、マラガイ［4］に出会って契約を結んだんだが、それは、毎月たった二つの作品を引き渡す義務だけで、毎月700ペセタが保証されるというものだ。展覧会では、九作品を売ったのだが、それぞれ600から1300ペセタの値段だった。

ぼくは大いなる規律をもって、たいへんに仕事をしているが、努力をし過ぎた感もある。

君に頼みたいのは、この夏、一緒にいられる機会を容易にするために何か探してくれないかな、ということだ。

もし時間があれば、君は車をもっているんだから、ラ・ガリーガの周辺、アマットリャとかサマルスなどで塔を見つけられないかな、あるいは気持ちの良い農家とか、ひと夏を千ペセタで［借りられるものを］（貯金できるかどうかの問題だが）。あるいはフェレリアスとか。住宅地のない場所で、人里離れていて、でも同時に、病気になったりした場合には、何らかの方法や便利なものがあるような。まあ、簡単ではないよね、でも見てみてくれたまえ。

ルビンシュタイン［5］が13日にスペイン音楽を演奏する。何を弾くか見てみよう。

君のご家族全員にどうぞよろしく。友情をもって、

フラダリック

註

［1］ジョアン・ジベルト・カミンス Joan Gibert Camins（1890～1966）。バルセロナ生まれの作曲家・ピアニスト。古楽に興味をもち、ワンダ・ランドフスカにチェンバロを学び、その名手となる。1945年からバルセロナ市立音楽院のチェンバロ教授。1931年に結成された「カタルーニャ独立作曲家協会（いわゆる「八人組」）」のメンバーの一人。

［2］ジャイマ・パイッサ Jaime Pahissa i Jo（1880～1969）は、バルセロナの作曲家。書簡92、19参照。

［3］アドルフ・ド・ファルゲロル Adolphe de Falgairolle（1898～1979）については、スペイン事情に詳しいフランスの評論家で何冊かのスペインについての著書がある、くらいのことしかわからなかった。

［4］このマラガイは、以前に言及のあったカタルーニャの詩人ジョアン・マラガイ（書簡136参照。1911年没）とは別人だろう。モンポウの兄、ジョセップはかなり成功した画家だった。

［5］アルトゥール・ルービンシュタイン Arthur Rubinstein（1887～1982）は以前からモンポウの作品をレパートリーに入れていた。書簡89や116を参照。

169

Paris 29 Maig 1929.

Estimat amic

He rebut les teves dugues cartes i comprenc que - no trobis rés pues jo també me veuria apurat amb un encarrec aixis. Potser sera Viladrau. Per la meva part ja sé que tindré de passar l'istiu al carrer de Casp darrera els vidres del cuarto del piano. Segurament a primers de juliol ja seré a Barcelona pues que de totes maneres haig d'estar alli per la boda del meu germá.

Tinc moltes coses per dirte referent a edicions de musica pero estic fatal per escriure. Sols te diré que ahir vaig ser invitat a dinar a casa d'en Salabert. Aquest istiu tindrém temps de parlarne.

La meva felicitació per el naixement del teu sisé fill. Felicitació en el sentit que la desitjo aquesta felicitat per el recent nascut igualment com per tots.

Tinc aqui la meva mare i el meu germá.

Moltes abrassades.

F.M.

パリ、1929 年 5 月 29 日

親愛なる友よ、

君からの二通の手紙を受け取った。そして、君が何も見つけられなかったことがわかった。まあぼくも、こうしてひとつことに進退窮まるということになるだろうとは思っていた。おそらくビラドラウ［1］になるだろう。一方ぼくはといえば、もうこの夏をカスプ街でピアノ部屋のガラス窓の内側で過ごさなければならなくなるだろうことはわかっている。7 月のはじめにはバルセロナにいることは確実なのだが、いずれにせよ、そちらで兄の結婚式に出なければならないんだ。

音楽出版について君に言うことがたくさんあるのだが、うまく手紙に書くことができない。ここでは、昨日ぼくがサラベール社に食事に招待されたということだけを言っておこう。この夏にそれについて話す時間をもつことができるだろう。

六番目のお子さんの生誕おめでとう。この祝辞は、希望とこのお祝いが、最近生まれたものだけでなく、［君の家族］全員に対してのものということなのだ。

今パリには母と兄が来ている。

多くの抱擁を、

FM

註

［1］バルセロナの東北に位置する町。ミネラル・ウォーターで知られている。

170

Paris 1 juliol 1929.

Estimat amic

He trigat molt a escriuret i aquesta ja sols es per dirte el meu proxim retorn que sera probablement el 7 o 8. La familia Jacoby han decidit passar l'istiu a Font-Romeu. Jo amb el meu germá casat, me veig obligat de fer companyia a la meva mare que amb tota la

familia dispersada se trobaria massa sola a Barcelona. Aixis es que me sembla que tens amic per tempo...

Acabo de passar unes engines formidables que fins creu m'han cambiat la lletra!

Com que potser aniré a acompanyar els Jacoby fins a Font Romeu, sera molt facil qu'em vegi obligat a tornar per Puigcerdá

No sé si el tren se para a la Garriga pues ja t'avisaria per veurens a l'estació

Fins aviat. Abrassades. Frederic

パリ、1929 年 7 月 1 日

親愛なる友よ、

君に手紙を書くのがたいへん遅れてしまった。この手紙はただ、ぼくの次の帰国がおそらく 7 日か 8 日になるだろうと君に伝えるためだけのものだ。ジャコビー一家は夏をフォン＝ロメウで過ごすことに決めた。ぼくは、兄が結婚してしまうので、母と一緒にいなければならなくなった。つまり、家族全員が家を出てしまうので、バルセロナで彼女ひとりで寂しくなってしまうんだ。こうしてどうやら君は「時間（テンポ）」という友人を手に入れることになったようだね……。

ぼくは先日ひどい急性扁桃炎になってしまって、信じてほしいのだが、おかげで字体まで変わってしまったんだよ！

たぶんジャコビー家をフォン＝ロメウまで送っていくから、プッチセルダを通って帰ることになるのは目に見えているね。

ラ・ガリーガ行きの列車が［あるかどうか］わからないが、駅で会えるように連絡をするよ。

ではでは。敬具、フラダリック

171

Barcelona 13 juliol 1929.

Estimat amic

Ja fa vuit dies que soc aqui. He trigat a escriuret per les feines de la boda.

Finalment ja esta tot consumat Els Planelles ja son avui a Sant Feliu i torno a estar rodejant la taula amb el meu Pare i Mare tots solets i sense soroll de criatures.

Espero veuret aviat. Jo tambe pujaré pero no crec poguer abandonar gaire la casa pues qu'estic aqui purament per a fer companyia a la meva Mare.

Perdona no t'escrigui mes llarg pues aquesta nit es la nit d'escriure pues sols havia agafat la pluma per escriure una carteta a Maria.

Fins aviat.

teu amic

Frederic.

Molts recorts per a tots.

バルセロナ、1929 年 7 月 13 日

親愛なる友よ、

ここに着いてすでに一週間が経った。結婚式のことで忙しく手紙を書くのが遅くなった。

やっと全てがうまく行った。プラネリャス家は

今日はすでにサン・フェリウに行き、ぼくは両親と共にテーブルに戻ってきた。ぼくたちだけで、子どもたちの大騒ぎなしにね。

すぐにでも君に会いたい。ぼくが［ラ・ガリーガへ］登って行っても良いが、家を余りに空けることはできない。というのは、ぼくがここにいるのは純粋に、母をひとりにさせないためなんだからね。

これ以上長く書かないことを許してくれたまえ。なぜなら、今夜は手紙を書く晩で、この前にはマリアに短い手紙を書いただけなんだ。

それではまた。

君の友人、

フラダリック

皆さんにくれぐれもよろしく。

172

Barcelona 1 Agost 1929.

Estimat amic

Me poses en un apuro! No sé quins titols posar pues qu'els que tinc al cap no son difinitius ni estan encare editats

No seria millor no posar rés? com els de Chopin que , peró, tenen tots una llegenda imaginaria.

Vertaderament crec que seria lo millor pues això dels titols ja me comensa a fer fástic.

Fés doncs articulos numerados

Ara què cine vol esser parlat nosaltres podriem fer musica muda! “Quatre Preludes”

S'ha

El music ha expressat els seus sentiments pel mitjá de la música. Jo crec que ara convé expressar musica pel mitja dels nostres sentiments

Sembla igual pero hi ha una petita diferencia

Lo primer son sentiments musicats lo segon es musica sentida

Els primers son musics temperamentals

Nosaltres som sentiments receptors de musica.

Si, peró Frederic

バルセロナ、1929 年 8 月 1 日

親愛なる友よ、

君はぼくを窮地に陥れた！　どんなタイトルを付けるべきかわからない。ぼくの頭に浮かんだものは、最終的なものでもなければ、いまだ出版されたものでもないんだ。

なにも付けない方が良いのでは？　ショパンのそれのように。でも、それらもすべて想像の伝説をもっている。

ほんどうに、それが最上だと思う。というのも、このタイトルの問題はもうぼくは大嫌いになりつつあるからだ。

だから「番号つきの記事」にしたまえ。

映画が語られようとしている今、ぼくたちは音楽を変えることができるだろう！「四つの前奏曲」。

される［1］

音楽家は音楽という手段で自分の感情を表現してきた。今や、ぼくたちの感情という手段で音楽を表現しても良いんじゃないかと思うんだ。

同じように見えるかもしれないが、ひとつ小さな違いがある。

最初のは音楽化された感情だが、二番目のは感情化された音楽なんだ。

最初のは音楽家たちが感情的になっている。

ぼくたちは音楽を受容する感情なのだ。

そうだ、でも
フラダリック

註
［1］この手紙はモンポウの「感情」の高揚を表すかのように文法上の破格に満ちている。「ほんどうに」もそうだし、この部分や最後の、文になっていないような、言葉のみを書き付けたものもそうだ。

173

Paris 25 Septembre 1929

Estimat amic

Me trobo altre vegada aqui i no se com. Jo no pensaba pas aquesta vegada anarmen de Barcelona. La meva Mare va posarse molt nerviosa i jo vaig dicidir de quedarme malgrat sapiguer lo molt necessaria que era la meva presencia aqui, tant necessaria que ningú podia haverme substituit en la feina qu'estic fent aquests dies. Pero cuant més concien çut jo estaba de quedarme, la meva mare l'ultim dia va dirme que ja m'en podria anar.

Pensa que aquest es el motiu si no vaig pujar a La Garriga, creu que estaba convençut de que ho podria fer sense cap apresurament pues creia haver renunciat ja a Paris

Aquesta vegada he deixat a Barcelona quelcom que no m'explico bé. M'hi sento més atret penso amb montanyes nostres, i el cel d'alli, i els carrers fins l'horchateria, la Rambla

El meu Pare... L'hi tinc un gran carinyo i el veig vellet

Aquesta vegada Paris m'es indiferent Encare m'hi sento lligat molt lligat encare tindré de lluitar pero me sento mes fort.

Vaig prometre a la meva Mare que despres del viatje a Italia jo retornaria amb ella a casa

Solament estic en un buit de la meva existencia que no sé per allá on anira la meva vida.

La musica! quina desolació sento Sembla com si tot lo que volia expre sar ja esta tot dit. No em sento music. Sembla com si hagués un error o bé he complert fidelment la meva missió. A sentir parlar el poeta Francis de Miomandre resultaria que jo soc el music de la nostra época.

En alguns moments de la nostra vida sentim

que un cambi s'opera en nosaltres. Jo en tinc un al 1923 Podria ser qu'en sufris un altre.

Escriume. Molts recorts a la teva familia i reb un abrassada del teu amic

Frederic

Si vas el dilluns a la reunió fes-me present

パリ、1929 年 9 月 25 日

親愛なる友よ、

またここに舞い戻ってきた。どのようにかはわからない。今回はバルセロナから立ち去ろうとは思わなかったのに。母がとても神経質になっていて、こちら［パリ］にぼくがいることが必要だとわかっていながら、［バルセロナに］残ることを決めたのだった。ここ数日間ぼくがやっている仕事について、ぼくの代わりになる者など誰もいないというくらい［ぼくは］必要にされているんだ。しかし、ぼくが［バルセロナに］残る気持ちが強ければ強いほど、母は、最後の日にもうぼくは行って良いと言ったのだった。

これがぼくがラ・ガリーガに行かなかった理由だとわかってくれ。それ［ラ・ガリーガに行くこと］は急いでしなくても良いものだし、すでにパリに行くことも諦めたのだから、と思っていたことをわかってくれたまえ。

今回はぼくは自分でもよくわからないものをバルセロナに残していった。ますます惹きつけられていると感じる。ぼくたちの山々、そこの空、オルチャタ屋［1］までの街路、ランブラス通り［2］のことを思う。

ぼくの父……。大好きだが、年をとったなあと思う。

今回はパリには何の魅力も感じない。いまだにぼくは縛られている、とても縛られているように感じる。まだまだ戦わなければならない。しかしより自分を強くも感じている。

母には、イタリア旅行のあとに彼女と一緒に家に帰ることを約束した。

ただ、ぼくは存在の空虚のうちにいる。どこから人生を取り返したら良いのかわからないのだ。

音楽よ！　いかに荒廃を感じることか。ぼくが表現しようとしていること全てがすでに言われてしまっているように思うのだ。ぼくは自分が音楽家だとは思えない。何かの間違いをしたようにも思うし、あるいはぼくは忠実に自分の仕事をしたのだ［ろうか？］。詩人フランシス・ド・ミオマンドル［3］の言によれば、結局ぼくは我々の時代の音楽家だということになるのだが。

ぼくたちの人生のある瞬間に、自らのうちでひとつの変化が起こっていることを感じることがある。ぼくはそれを 1923 年に感じた［4］。もう一回それが起こるということかもしれない。

手紙をくれたまえ。御家族によろしく。友人からの抱擁を。

フラダリック

もし月曜日に集会にいくなら、ぼくに知らせてくれ。

註

［1］オルチャタ horchata とは「カヤツリの地下茎・アーモンドなどのペーストに水と砂糖を加えた豆乳のような飲み物」（小学館『西和中辞典』による）。

［2］バルセロナ旧市街の中心から海まで続く繁華な通り。

［3］フランシス・ド・ミオマンドル Francis de Miomandre（1880～1959）は、フランスの小説家・詩人・翻訳家。スペイン小説の翻訳を多く手掛けた。
［4］1923年にモンポウは、愛人となるマリア・ジャコビーと出会っている。しかし1929年にどのような出会いがあったのか（あるいは別の何か？）は不明である。

174

Barcelona Dissapte 1929

Estimat amic.

Probablement demá diumenge pujaré a la La Garriga cap el tard, amb una pianista francesa que esta aqui de pas a Barcelona y que voldria coneixet per tocar musica teva.

Sera el ganxo perque jo / realitzi també aquesta excursioneta y aixis sera per a mi un doble plaer. Li fa ilusio també coneixer aquest paisatge nostre y de la nostra musica

Ella es Margarita Monnot.

Podriem aprofitar el diumenge nit per a fer musica. Dilluns matí potser per impresionar

D'avui a demá encore queden moltes hores A veure si sera.

teu amic.

Frederic

バルセロナ、1929年土曜日［1］

親愛なる友よ、

おそらく明日の日曜日夕方にラ・ガリーガに行く。フランス人の女流ピアニストと一緒だ。彼女は旅行の途中バルセロナに寄ったのだが、君の曲を弾くために君と知り合いになりたがっているんだ。

それ［ラ・ガリーガに行くこと］は、ぼくがまたこの小旅行を実行し、こうしてぼくにとっては二重の喜びになるという意味でカギとなるだろう。また彼女には、このぼくたちの風景とぼくたちの音楽を知るという喜びを与えることができる。

彼女の名はマルガリータ・モンノ［2］という。

日曜の夜には音楽をして楽しむことができるだろう。月曜の朝は、たぶん［景色などで］印象づけることが［できるだろう］。

今日から明日まではまだまだ多くの時間がある。どういうふうにするか考えよう。

君の友人、

フラダリック

註

［1］この手紙には月日の記述がない。しかしモンポウはバルセロナにいるので、夏か年末であろう。カタルーニャ図書館の整理ではここに配置されているので、年末という判断だと思われる。
［2］マルグリット・モンノ Marguerite Monnot（1903～1961）。モンポウは「マルガリータ」とスペイン風に書いている。フランスのピアニスト・作曲家。現在、彼女はエディット・ピアフのシャンソンの作曲家として知られている（《ミロール》や《愛の讃歌》など）が、最初はピアノの神童としてデビューした。8歳でリストやショパンをコンサートで演奏し、サン＝サーンスに褒められたりしている。しかし20代でシャンソン作曲に目覚め、1931年には最初のシャンソンを作曲し認められ、以後続々とヒット作を生み出すことになった。だからモン

ポウと出会った頃は、まだ作曲家ではなく、新
進気鋭のピアニストだったわけである。